ライフスタイル賞

新谷　哲雄

山口県 菊川町（居住年数10年）

講　評

平成７年、阪神淡路大震災を契機に、かねてから考えていた田舎暮らしを実践するため、妻の故郷である菊川町へ移住。「ＮＰＯ法人歌野の自然とふれあう会」を立ち上げ、山口大学工学部との共同作業により解体される築100年以上の茅葺き民家の再生保全に取組み、そこを「歌野清流庵」と名付けイベント等を通じて地産地消や農業体験による交流活動を展開している。移住１０年という短期期間で地域に溶け込み、今後の活動の広がりに期待がもてる点が評価された。

ライフスタイル賞

進士（しんし）　徹（とおる）

福島県（ふくしまけん） 鮫川村（さめがわむら）（居住年数16年）

講　評

わが子に安心・安全な農作物を食べさせたいとの願いから昭和63年31歳の時に、静岡県より移住し家族4人で山村生活をゼロからスタート。ねむの木学園の経験を生かし山村留学や自然体験学校「あぶくまエヌエスネット」などを設立、自然体験を通しながら農山村の魅力を子どもから大人まで広げる交流活動を展開している。活動の幅に広がりもあり、地元住民、首都圏の若者と連携を図るなど「人を巻き込む力」がすばらしい点が評価された。

ライフスタイル賞

青木（あおき）　三郎（さぶろう）

沖縄県（おきなわけん） 石垣市（いしがきし）（居住年数6年）

講　評

これまでダイビングを通じて石垣島に度々訪れ、石垣島の海や自然、食、人々に魅了され、定年を期に60年住み慣れた埼玉県所沢市から移住。自家製野菜を使用しながら農家民宿を経営し、パッションフルーツの栽培、趣味の陶芸は築窯するまでに至る。また地区の行事には積極的に参加するなど地域に溶け込んだ新しいライフスタイルを実践している点は大変魅力的であり、これからの高齢化社会での生き方として参考になる点が評価された。

15年度受賞紹介

オーライ！ニッポン大賞グランプリ
内閣総理大臣賞

飯田市
長野県飯田市

オーライ！ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流を促進するため、「都市側から人を送り出す活動」、「都市と農山漁村を結びつける活動」、「農山漁村の魅力を活かした受入側の活動」等について優れた貢献のあった団体もしくは個人を表彰するもの。

周辺の町村、民間団体とともに、体験型観光専門の第３セクターである（株）南信州観光公社を立ち上げ、４００戸以上の農家の協力を得て、年間２２０校に及ぶ小・中・高校の修学旅行を受け入れ、体験学習の普及推進に大きく寄与している。農業体験は、生徒が数名ずつ分かれて宿泊した農家の日常の農作業に加わって行うという本物志向。体験メニューも年間を通じて１００以上のプログラムが用意されており、大変充実している。

また、全国に先駆けて取り組んでいる「ワーキングホリデー」は、年間２００名を超える人々が訪れる中で、地域で活躍するインストラクターが約３００名も育ち、体験受け入れ農家数も１００戸になるなど、地元住民や高齢者にとっては生きがいに繋がる活動となっている。

都市と農山漁村のお互いの暮らしが豊かになる取り組みであり、都市農村交流が総合的に地域活性化につながっている点が高く評価された。

オーライ！ニッポン大賞

武蔵野市教育委員会
東京都武蔵野市

武蔵野市は小学５年生と中学１年生全員を対象として、１週間程度、農山漁村に滞在して農業等の体験学習を行う長期滞在型のセカンドスクールを全国に先駆けて実施している。子供たちの自然や農山漁村の人々とのふれあいを通じた経験は大きな教育的な成果をあげており、その交流がセカンドスクール終了後も継続している。

また、セカンドスクールは希望者を対象として行うのではなく、教育プログラムとして参加は義務と位置付けるとともに、学校教育の中で長期宿泊体験教育を行うための解決すべき問題点や課題を明らかにし、学校、教育委員会、受入先の三者が試行錯誤しながら解決していっている。その結果、セカンドスクールを実施するシステムも確立し、生徒を送り出す側として極めて優れた取り組みとなっており、大きな広がりをもって展開している点が高く評価された。

オーライ！ニッポン大賞

石河　智舒
栃木県茂木町

石河氏は１９６０年代までは薪炭や葉タバコの生産が盛んだった栃木県茂木町元古沢地区がだんだんとその生産も衰退し、働き手が外に出ていってしまう状況を深刻に受け止め、ゆずに着目した地域興しに取り組み、地域住民の合意形成による地域ぐるみの活動として農家１３戸全戸による「八講ゆず生産組合」を発足させた。平成５年にはゆずのオーナー制度を開始し、現在では６００人を超え、１万本のユズが植えられ、年間２万人の観光客が集まるようになった。また、「ゆずの里かおり村」を開設し、都市住民を「かおり村の村民」とするなど継続的に交流できるシステムを作り出した。

この取り組みにおける石河氏のアイデアと行動力は大きく、地域づくりのリーダーとして今の中山間地域に最も求められる人材である点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞

九州ツーリズム大学
熊本県小国町

「九州ツーリズム大学」は、農山村でのツーリズム実践者やコーディネーター的人材の育成などを目的に多様な講師陣により、基礎から実践まで広くプログラムを実施している。その活動は全国に先駆け、より質の高いグリーン・ツーリズムを求め、ユニークな充実したプログラムに基づくグリーン・ツーリズムの担い手の人材育成を実施している。このことは全国的に見て模範的な活動として知られているところである。開校から７年、受講生は昨年度で９００名を超え、この取り組みはパイオニア的存在であり、全国的に波及し各地でツーリズム大学の開校が相次いでいる。また、フィールドワークの講師として地域住民が参加するなどこの取り組みに地域住民が一体となって取り組んでいる点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞

たざわこ芸術村・わらび座
秋田県田沢湖町

昭和５２年から農業体験学習旅行を受入れて以来、２６年間にわたり継続して実施している。専門のコーディネーターを配置するなど、近隣の農家と綿密な連携により、関東、関西の中学・高校など年平均１０校１５００人の生徒を、秋田県仙北郡、平鹿郡、河辺郡、北秋田郡にまたがる２０市町村の農家３００軒ほどで広域的に受入れている。この取り組みを通じて、農家の方々との温かいふれあいを経験するなど長年都市と農村の構流しに貢献しており、また、都会の子供たちと受け入れ農家の双方に活力や様々な効果が生まれてきている点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞

農事組合法人 伊賀の里モクモク手づくりファーム
三重県阿山町

農業生産から交流まで一貫した取組みであり、平成７年以降、農業を感じてもらう場、生産者と消費者、地域住民の触れ合う場としてモクモク手づくりファームを創設。

その後、「農業」、「自然」、「手づくり」のテーマパークとして活動を展開し、「おいしさと安心の両立」したものづくりをモットーに、ハム・ソーセージ等の生産・加工・販売まで行っており、年間５０万人の来園者がある。

また、「手づくり体験教室」を通じて都市住民との直接交流が進む中で、高品質な商品開発と近隣市へのテナントレストランの展開、全国約３万世帯の会員組織など積極的な経営戦略へ繋げており、安定した事業基盤を築き上げている点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

飯山市グリーン・ツーリズム推進協議会
長野県飯山市

スキー民宿から農業・農村生活体験型民宿に取り組み、平成9年に「なべくら高原・森の家」を設立し、地元の豊かな資源を活用した体験プログラムの開発や資源の発掘を行い、１８０名の市民によるインストラクターにより、都市住民のニーズにマッチした体験プログラムを用意し、リピーターも多く、グリーン・ツーリズムの普及推進に寄与している点が評価された。

15年度受賞紹介

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

色川地域振興推進委員会

和歌山県那智勝浦町

廃校を利用した『町立難ふるさと塾』を拠点に、新規定住者の受入れを推進。昭和５２年から４４世帯１２１人が新規定住し、地域全人口の２５％を越えている。その結果、在校児童生徒２８名のうち８割が新規定住者の子供である。新規参入者が４分の１を越える取り組みは全国的に見てもとてもユニークな取り組みであり、定住促進を目指す他の地域の参考になる点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

上田西百姓王国

岡山県加茂川町

加茂川町の『全町公園化構想』をきっかけに上田西地区の住民会が百姓王国を建設した。百姓王国は、農作物等に大臣を任命し、大臣の似顔絵看板を設置したり農業体験修学旅行の受け入れを行ったり、郷土料理の提供、２５０本の桜をボランティアで植樹するなど環境美化に取り組んでいる。住民が「遊び心」を活かして楽しんで活動しており、地域への普及に繋がるという点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

特定非営利活動法人 エコ・ビジョン沖縄

沖縄県那覇市

持続的で環境調和的な再生産の場づくりを図るため、地域における生ゴミの減量化と、生ゴミの飼料化・堆肥化を都市部周辺の農家と連携し循環利用を促進している。生ゴミ排出業者、回収業者、飼料化業者、堆肥製造業者、養豚農家、販売業者、行政などの間のコーディネート役を担い、現在は月５６トンもの生ゴミが資源化されるなど、今後の環境保全、循環型社会を創造する上で重要な取り組みである点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

特定非営利活動法人 里山倶楽部

大阪府大阪市

里山文化の継承と都市と農村住民の交流を目指し「里山の学校」を開校、農林業の作業や技術、伝統行事を教えており、平成１３年からこれまでに６９名が参加している。里山経済の活性化と農的暮らしの復興を求め、地域住民との交流も積極的に進めており、都市側から積極的に農山漁村への交流を仕掛けている取り組みである点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

特定非営利活動法人 ホールアース研究所

静岡県芝川町

昭和５７年より良質で適切な農山漁村での自然体験活動の提供や調査研究、人材育成などを自治体と連携し企画・運営を行っている。自然体験教室は年間６万人参加、小・中・高校の修学旅行向けの教室は年間４００校、４万人以上が参加している。国内最大の自然学校であり自然環境や農山漁村体験の専門家集団として、その実績が高く評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

園田　秀則

山口県美祢市

園田氏の所有する山林を一般に開放して、NPO法人里山ネットワーク、里山マイスター、林業指導士の専門性を生かし、森の手入れ、キノコ狩り、炭焼き等の森林体験の場を提供している。また、専門家による森林技術の指導も行い、年間３０００人の参加者を得ている。森で何をするかは体験者の自由であり、このようなスタイルは従来の体験型から一歩進んだ形である点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

安心院町

大分県安心院町

「安心院方式」といわれる会員制農家民泊のシステムを築きあげ、大分県下にその取り組みは広がっている。平成14年度の実績では一般民泊者２６５０人、学校８校３４５人に上る。また、従来の時間制の体験プログラムではなく、ふれあいを重視した家族の一員として農村の生活そのものを体験するプログラムを実施し、住民主体でグリーン・ツーリズムのまちづくりを実践するなど、農村らしさを大切にした個性的な取り組みを行い、他の地域に広く波及している点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

特定非営利活動法人 大山千枚田保存会

千葉県鴨川市

平成7年に大山千枚田保存会が設立、平成１２年から棚田オーナー制度を実施し、１５年度１３６組を受入れている。また、大豆畑トラストは、１５年度５５口を受入れるなど、東京を含む大都市圏に近いという条件を生かし、都市住民との交流を通じて美しい棚田をしっかりと守っている。また、この交流活動を通じ、地元の人々に誇りと自信が生まれている点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

特定非営利活動法人 黒潮実感センター

高知県大月町

「里海」をキャッチフレーズに自然を実感する取り組み（海洋セミナー、海の環境学習、体験実感学習など）や、自然と暮らしを学ぶ取り組み（調査や保全活動、自然を生かす暮らしづくりなど）を実施している。海洋資源を生かした体験学習は、県内外の学生やダイバー、観光客を呼び、地元の住民と交流することで自分の地域の価値を見出しており、環境保全への取り組みも活発化し、地域活性化に寄与している点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

白山連峰合衆国事務局

石川県鶴来町

平成元年に１市５町による観光共同体として設立。従来型の観光から、地域の四季折々の資源を活用した山歩き、歴史、文化探訪などのメニューを企画開発し、交流を推進している。３年前には合衆国の長である大統領を民間から受入れるなどユニークで積極的な活動を行っている点が評価された。

15年度受賞紹介

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

兵庫県子ども自然村

兵庫県神戸市

青年ボランティアや地元の方々による手づくり村で、稲刈り、地元の祭り、農作業体験、生活体験などの交流を活発に行っている。都会からの送り出しはとても厳しい中でよく活動している事例である。受入れる側の市町村にも都市側にこのような子ども会の体験活動があることをもっと伝え、うまく連携していけば都市と農山漁村の共生・対流がさらに推進すると考えられる点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

水土里ネット立梅用水

三重県勢和村

農業用水施設の近代化による農家の農業用水離れを解消するために、都市住民と地域住民で農業用水の保全活動をスタートし、美しいむらづくりや都市農村交流を推進している。あじさいの植栽、休耕田を利用したメダカ飼育など、身近な農業用水を活用し、子どもたちや都市住民に水の大切さや自然環境の理解を深めている取り組みが評価された。

オーライ！ニッポン大賞 審査委員会長賞

有限会社 とかち自然体験学校

北海道豊頃町

北海道極山地区、十勝地区において有限会社とかち自然学校が行っている活動は、小中高校の修学旅行、首都圏や地域の子どもたちを中心とした人々の各種自然体験、また、地域の農家や酪農家と連携した農林漁業体験を受け入れている滞在型観光体験ビジネスであるが、自然及び一次産業と結びつけた民間によるユニークな新しいタイプのビジネスである点が注目され、都市農村交流の推進、積極的に地域活性化に寄与している点が評価された。

ライフスタイル賞

ライフスタイル賞は、Ｉターン等により農山漁村において個性的で魅力的な新しいライフスタイルを実践している方について、広くその生き方を紹介し、今後農山漁村に住んでみたい、行ってみたいと思う方々への参考としていただくことを目的として表彰するもの。

ライフスタイル賞

石黒　宏

長崎県福江市

東京生まれの山形育ち。東京でのサラリーマン、脱サラ・外国（ブラジル）生活などを体験し、昭和５０年に農業新規参入者として五島列島の福江市に約２haの土地を入手し定住。２０年前に日曜朝市を仕掛けるなど、長年この市の世話役を務めている。地域に溶け込み、地産地消活動の世話役を担うといったライフスタイルは、田舎暮らしを目指している人々の参考になり、また、広い視野での生き方は、青少年に対し生きる道が多様にあることを示すモデルになるという点が評価された。

ライフスタイル賞

門田　進

岡山県大原町

自分のライフスタイルには欠かせない、ログハウス、薪ストーブ暮らし、ダッチ・オーブンのある暮らしを実現するために、また、仕事の診療放射線技師を生かした僻地医療、福祉にも貢献していきたいと８年前に現住所へ移住した。身に付けた技術を生かした定職を持ち、趣味と結びつけたカントリーライフを満喫、ＨＰでもハンドルネーム田舎時遊人という名でその魅力的な自分のカントリーライフの情報をお酒落に発信しており、これから田舎暮らしを考えている人の参考になる点が評価された。

ライフスタイル賞

曽根原　久司

山梨県白州町

東京で銀行や企業等のコンサルタントを行っていたが、バブル経済の崩壊をきっかけに、骨太の地域社会構造のモデルを作るべく山梨へ移住。遊休農地を人力で開墾し、最終的には２haの農地で自給を基本とした生活を実践。趣味の音楽を生かした地域での文化活動は地域活性化に大きく貢献している。また、地域に多かった定住者と地元住民の接点を探り、自ら調整役として積極的に活動している。自給の生活をベースに自分の趣味や特技を伸ばすライフスタイルを実現しながらも、地域社会に溶け込む努力をしている点が評価された。

ライフスタイル賞

長崎　喜一

富山県朝日町

県職員として在籍していた平成６年から杉の間伐材で手づくりの丸太小屋を建設し、集まってきた地元の仲間たちと平成８年に地域活性化グループ「やまびこの郷」を結成。その後、紙すき小屋、白炭窯等、里山の生活技術を伝承する匠の小屋を建設。炭焼きや紙すきなどのもの作りが体験できる活動を行っており、現在では県内外から年間約２０００名が訪れるようになった。活動をここまで発展させたのは、長崎氏の信念と熱意に多くの人が集まり、地域住民とともに取り組んだ成果であり、また、定年退職後の生き方の一つとして参考になるという点が評価された。

ライフスタイル賞

中島　健介

福岡県立花町

元々農業を営んでいたが、平成８年に農家民宿「大浦谷の里」を登録し立ち上げる。口コミで都会からのお客さんも多く、現在は地域の仲間たちと力を合わせて福岡市、北九州市などから「子供ファームステイ」を受入れている。また、趣味である音楽を生かし素人バンドを結成し、ボランティアで老人ホームに出掛けたり、地域でコンサート活動も行っている。自ら田舎暮らしを楽しみ、そしてその楽しいところを積極的に情報発信している点が評価された。

ライフスタイル賞

畠山　芳子

富山県利賀村

東京都武蔵野市の市議会議員をしていた畠山さんは、武蔵野市との姉妹都市提携の３０年間にわたる交流をきっかけに利賀村へ魅力を感じ、６０歳を機に移住した。現在は、交流ボランティアとして、毎年武蔵野市から受入れるセカンドスクールの子どもたちの世話や、村を訪れた人達の案内などを行っている。移住先でも、これまでの経験を生かした活動により社会貢献に繋がり、都市と農山村両者のコミュニケーションを高めている。これからの女性の新しい生き方のモデルになりうる点が評価された。

オーライ！ニッポン大賞　審査委員

会長	川勝　平太	国際日本文化研究センター教授、オーライ！ニッポン会議副代表
	井上　和衛	全国グリーンツーリズム協議会会長（明治大学名誉教授）
	岡島　成行	ＮＰＯ法人自然体験活動推進協議会代表理事
	金子　賢太郎	(社)日本旅行業協会理事長
	長岡　杏子	ＴＢＳアナウンサー
	平野　啓子	語り部、武蔵野大学非常勤講師、オーライ！ニッポン会議副代表
	松本　零士	(社)中央青少年団体連絡協議会会長
	村田　昭夫	毎日新聞社総合メディア事業局次長
	元石　一雄	(財)社会経済生産性本部　理事

オーライ！ニッポン大賞　概要

●趣　旨

都市と農山漁村の共生・対流に関する活動を行っており、交流の拡大、活性化に寄与した団体・個人や、都市と農山漁村双方の生活、文化を楽しむライフスタイルを実践している個人を表彰し、その活動を広くＰＲすることで農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルの普及推進を図ることを目的としています。

●表彰対象・審査基準

オーライ！ニッポン大賞

都市と農山漁村の共生・対流を促進するため、「都市から人を送り出す活動」、「都市と農山漁村を結びつける活動」、「農山漁村の魅力を活かした受入側の活動」等について優れた貢献のあった団体もしくは個人。

（1）表彰の種類

内閣総理大臣賞（グランプリ） ＊下記「オーライ！ニッポン大賞」の中から１件グランプリを選定

オーライ！ニッポン大賞　　**6件**

審査委員会長賞　　**数件**

（2）審査の基準

ア　農山漁村地域を舞台とした新たなライフスタイルの提案、普及に関する取り組みであること。
イ　地域の個性を生かした取り組みであること。
ウ　農山漁村地域を活性化する効果があること。
エ　都市側、農山漁村側双方の住民の参加を促進する取り組みであること。
オ　長期的な取り組みの実績があること。
カ　効果が持続して発現すると見込まれること。
キ　他の地域における応用性に富んでいること。

ライフスタイル賞

Ｉターン等により農山漁村において個性的で魅力的な新しいライフスタイルを実践している個人。

（1）表彰の種類

ライフスタイル賞　　**数件**

（2）審査の基準

ア　農山漁村を舞台とした新たなライフスタイルを実践していること。
イ　個性的で魅力のある活動であること。
ウ　新たなライフスタイルの実践に継続性があること。
エ　新たなライフスタイルが他の人の参考となるものであること。

〈主催〉
オーライ！ニッポン会議
農林水産省
(財)都市農山漁村交流活性化機構

〈共催〉
毎日新聞社

〈後援〉
総務省
文部科学省
厚生労働省
経済産業省
国土交通省
環境省

オーライ！ニッポン大賞　事務局

(財)都市農山漁村交流活性化機構
〒103-0028　中央区八重洲1-5-3　不二ビル８階
TEL　03-3548-2711　FAX　03-3276-6771　ホームページ　http://www.kouryu.or.jp